

様式2

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

学校名 伊豆の国市立大仁小学校

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

1 実践テーマ	【 Ⅲ 】
2 実施対象者	第4学年児童 73名 職員 3名 特別支援学級児童 4名 職員1名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間及び道徳科） 行事名（第2回大仁小パラリンピック） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	パラスポーツを体験し、その理念や携わる人々（選手、サポート）の思いについて共感的に考えることを通して、思いやりをもつ美しさや、どんな人たちとも支え合い、共に生きていく素晴らしさについて考える事ができる。
5 取組内容	学年テーマ「思い合うわたしたち 支え合うわたしたち」 ①国際パラリンピック委員会公認教材「I'm possible」の活用 (H29版 I'm possible) ②10月18日（木） ブラインドマラソン体験とパラ種目紹介 (H30版 I'm possible) ③10月25日（木） ボッチャ体験（第1校時・2校時） ④11月8日（木）パラ陸上 鈴木秀俊さんを迎えて（第5校時・6校時） ⑤11月14日 道徳「心をつなぐ一本のロープ」 ⑥パラリンピック掲示板 ⑦12月20日（木）1月11日（金） ボッチャ大会（学年）
6 主な成果	・昨年度、本事業で経験した「ボッチャ」にじっくり親しむことができた。 ・パラアスリートの鈴木選手とサポートの青木選手との交流会では、選手の凄さを実感するだけでなく、チャレンジする素晴らしさや、お互いを信じて支え合う美しさを二人の姿を通して感じる事ができた。
	①「I'm possible」の活用 昨年度資料はパラリンピック全体の知識理解を深めるために活用した。中でもその理念である「失った物を数えるなどできることを最大限に生かせ」という言葉は子ども達がアスリートの気持ちに触れる貴重な一節となった。 ②ブラインドマラソン体験とパラ種目紹介 本年度資料には、「ブラインドランナー」について紹介されており、それらを提示しながら、種目についての理解を深めた。紹介動画が組み合わされており、子どもの興味のあることから、選択して視聴することができた。

7実践において工夫した点
(事業の特色)

③10月25日(木) ボッチャ体験

パラリンピック独自の種目である「ボッチャ」について理解し、体験を行った。動画を視聴しながら、ルールを確認した。本年は、ブルーシートを用いた簡易ボッチャコートを作成したことで、スムーズに体験が進み、時間短縮につながった。最初は感覚で投げていた子ども達が、途中からは、少しずつ戦略を考えるようになり、夢中になっていく様子が見られた。後半は、どんな人も平等に参加できる種目の特性を感じてもらいたいと、様々な身体的ハンディが書かれた「カード」を作成した。ハンディが投げることにどんな苦労があるか、また工夫ができるか思考する場面が見られた。(図1)

④11月8日(木) パラ陸上 鈴木秀俊さんを迎えて

パラ陸上100m・200m選手として活躍されている鈴木秀俊先生をお迎えして、講話と模範演技、競争をしていただいた。最後の質問会では、児童の誠実に回答をしていた。中でも「もし、目が見えるようになったら何をしたいか」という質問に「伴走者になりたい」という、鈴木先生の回答は、選手がサポートランナーにどのような思いを持っているかが伝わってきた。(図2)

⑤11月14日(水) 道徳「心をつなぐ一本のロープ」

これまでの福祉教育・パラリンピックへの理解を基にした「親切・思いやり」の道徳的諸価値について、実践意欲を高めることを目的とした授業を実践した。児童は、鈴木さんや、青木さんの姿を思い浮かべながら、それぞれの思いに共感しながら、お互いの思いを語り合うことができた。(図3)

⑥パラリンピック掲示板

図書館司書の協力を得て、関連図書を多く展示。普段から手に取れるように工夫した。合わせて、総合単元全体がつながるように展示を行った。(図4)

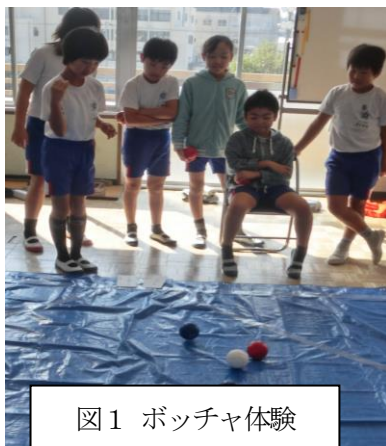


図1 ボッチャ体験



図2 鈴木選手との交流会



図3 道徳授業の様子



図4 道徳掲示板

8主な課題等

パラリンピアンを紹介や仲介をしていただけるとありがたいです。

9来年度以降
の実施予定

今後も、4年生総合、福祉教育とパラリンピック体験等を関連づけることで、双方の理解の充実を図りたい。学習を通して、子ども自身で考える「わたしの」パラリンピックや福祉のあり方を見つめる機会としていきたい。

